

北里大学薬学部における講義「医療倫理学」の検討

○有田 悦子¹, 細谷 未佳¹, 堂園 俊彦², 齋藤 有紀子³, 神谷 恵子⁴, 水本 清久¹,
氏原 淳⁵, 竹下 啓⁶, 川村 和美^{2,7}, 伊藤 智夫¹(¹北里大薬,²静大人,³北里大医,
⁴東京弁護士会,⁵北研病治験,⁶北研病内科,⁷スギメディカル)

【背景】薬学教育 6 年制が始まり、医療人間教育として低学年からの系統だったヒューマニズム教育に期待が高まっている。しかしながら、薬学教育におけるヒューマニズム教育は緒についたばかりであり、どのような項目を取り上げ、どの位の範囲をどの程度、どのような教育方法で実施していくかについては、まだまだ検討および全国的な情報交換が必要な段階である。

【目的】そこで本研究では、北里大学薬学部 3 年次に開講している「医療倫理学」について受講学生の授業評価結果等を検討し、より適切な教育プログラム構築に寄与していくことを目的とする。

【方法】2008 年 9 月から開講の「医療倫理学」を受講した薬学部 3 年生に対して、講義最終日に授業評価（無記名）を実施する。実施にあたっては、無記名であること、この結果が成績評価には影響を及ぼさないこと等を口頭で説明して施行する。評価項目としては、カリキュラム構成、講義内容についての関心度や理解度、講義受講前後での倫理意識の変化などについて取り上げる。

【結果と考察】本講義は、全 12 回にわたって開講され、各テーマ毎にそれぞれの分野の専門家を招聘し、オムニバス方式で実施した。また、各テーマ終了時には学生に課題を与え、A4 1 枚のレポートを提出してもらった。講義開始前は、各回が一話完結型になり、それぞれの内容が連動しない可能性を危惧していたが、学生のコメントからは様々な角度から『倫理』について考えていくことにより、更に理解が深まっていく様子が伺われた。また、講義の中で具体的なケースが取り上げられ、4 分割法などによる作業等を通して、『倫理』がより身近なものに感じられていた。結果の詳細については、当日発表する。